

家族ぐるみで支援する「1年次から始める就活塾」

学生版 一億人の就職道場® + ジョブクラブ®

「家族ぐるみで支援する・1年次から始める就活塾」
主宰者 白根陸夫 からのご挨拶

株式会社 キャリア・ブレイン 代表取締役
NPO/日本プロフェッショナル・キャリア・カウンセラー協会 理事長
創業：1995年(平成7年) 当時52歳/現70歳

この就活塾【家族ぐるみで支援する・1年次から始める就活塾】を受講したいのですが、修了したのちに、「就職先を紹介してくれるのでしょうか、そして紹介された会社に必ず入社することができるのでしょうか」という質問を、無料体験セミナーにおいて、よく受けま

す。あらかじめご承知おきいただきたいのですが、講座主宰者白根陸夫は、この就活塾を修了した方々に対して就職先のお世話をするとか、就職先の紹介やあっせんをすることはいたしません。人の一生を左右することは他人にはできないことなのです。

このことをご了解のうえ、この就活塾をご受講いただきたいと存じます。

この就活塾を、単に就職活動をするための準備を教える学習塾と捉えると、本質を見誤ることになります。

私たちは何のために生きているのでしょうか。

私たちは一人で生きていくことはできません。自分のおかれた環境をここで熟慮してください。一人でこれまで大きくなったと思いをしていませんか。よく考えてみると、あなたは、これまで多くの人に助けられて今ここに生きているということが理解できるでしょう。これまで人に助けられてばかりの人生でしたが、大学を卒業すれば立派な成人です。今度はこれまで助けられてきた分の何倍ものものを社会に還元しなければならないのです。

人は何のために働くのでしょうか。

アルバイト経験の豊富な多くの学生は「おカネ」を稼ぐためと考えています。

その「おカネ」は誰のためと問うと「自分のため」と答えます。このこともしっかり考えてみてください。誰が見ず知らずの人に「おカネ」をくれるのでしょうか。逆の立場であればあなたはどの理由もなくそうしますか。人の役に立った思考や行動をしたからこそ、その行為を評価する他人から「ありがとう」という謝意が「おカネ」という形になってあなたが受け取ることになるのです。あなたもこれまでそうしてきたと思います。

「おカネ」はできれば沢山いただきたいものです。誰もそう思います。

だから一所懸命働きます。このことは「一所懸命人に尽くす」と同じことだったのです。

アルバイトという呼称であっても知らず知らず他人のために働いていたのです。「おカネ」がもつ不思議な力に感嘆せざるをえません。ここまで理解できたあなたは、**大学を卒業した暁にはどのようにして社会に貢献しようと思えますか。**

「就活」とは、組織に属するために、属したい組織を自らの意志で探し出し、自分の力が組織目的達成のため如何に役立つかを組織の長に売り込み、その組織の長から組織のメンバーになることを認めてもらうことなのです。

組織に属さない途を自らの意志で選択する人は自営業を起業する、或いは一人で完結できる仕事を選ぶ必要があります(芸術家、資格をもつ専門職、職人等)。ある目的を達成するために賛同する人が集って活動する集合体が「組織」です。組織目的は多岐に渡ります。その目的によって営利法人(株式会社)、公益法人(社団法人・財団法人)、非営利法人(NPO/NGO)、官公庁、地方公共団体、学校機関などに分類されます。

「就活」を短絡的に「知名度のある大企業の株式会社に採用されるためのテクニック」と考えていませんか。

隣の学生が就活しているので、自分もどこかの会社へ入社しなければならないと考える前に、自身の価値観をしっかり考え、進むべき方向(キャリアビジョン)を見つけ出し、納得してからの射的行動を起こすことが肝要です。この就活塾では、生涯で達成するキャリアビジョンを設定し、それを実現させるために生涯自己開発計画を策定したのち、具体的に業種・職種を絞り込みを行い、属する組織の目的達成のために貢献すると共に、自身のキャリアビジョンも同時に実現する途を明確にすることを主目的としています。

自身の確固たるものに気づけば、あとは目標とする組織へ自身の力をどのようにして売り込むかというノウハウ・スキルが修得できるステップ構成です。「就業支援」一筋18年、講座主宰者の人事経験(5社・30年)、経営者経験(18年)から創出した実績・効果立証済みのプログラムです。

キャリアビジョンの設定、実現させるための生涯自己開発計画の策定、業種・職種の絞り込み、売り込みノウハウ・スキルの伝授について、講座主宰者及び専任講師陣は受講者を全力で支援します。

しかしながら、受講者が最適と考える卒業後の進路や就職先は、受講者自身でしか見つけることができなにご理解いただけたと思います。

受講者の未来は自身でしか切り拓くことはできないのです。

そしてその準備は早ければ早いほどよいのです。

